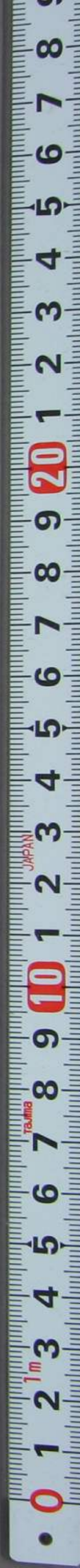


126
2
5

草子族、処置及び日本全銀、貯蔵ヲ論ス

リセトル建古
第二書



114
A 4434
2



第二章

華士族ノ處置及ヒ日本金銀ノ貯藏アルヲ

論ス

唯、新夕ニ華士族ノ為メニ有用ノ地位ヲ發見シ
得ルノ方案ニ於テハ畧々辨明セシト云テ可ナリ
然レトモ該事ヲ舉行スルニ就テ困難ナルハ專
ラ閑業スヘキ事物ノ乏シキニアラスシテ政府
ヨリ華士族ニ委子ントスル地位ヲ踐行セシム
ルニ其華士族ノ才能ヲ欠クニアリ夫レ華士族
タルモノハ素ヨリ其天稟ノ智カト才能トニ乏

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

シト謂フヘキニアラスト雖氏概子旧来慣習ノ
 久シキ後々新ナル事業ニ就テ其時間ヲ利用
 スルニ適當ナラサルモトナレリ曾テ聞ク旧
 左大臣島津久光ハ獨リ華士族ノニ就テ皇國
 ノ陸軍ヲ募ラン事ヲ建言セラレシト蓋シ其論
 ニ謂ラク日本政府ハ第一立君政體ニシテ之レ
 カ安全ヲ謀ラント欲セハ則チ貴族ノ類ヲ以テ
 近衛ノ官トナサハルベカラズ且華士族ハ武門
 ノ貴族ナリ之レヲシテ軍事ニ從ハシムル固ト
 ニ適當ノ職任ト謂フヘシ武門ノ家ニ出生シタ

ル者豈能ク之レヲ措テ他ニ生活ヲ求ムルヲ得
 ヘケンヤト

此献策ハ政府敢テ之レヲ採用セサリシハ蓋シ
 其專ラ主張スル所以ノモノ他ナシ特リ貴族ノ
 ニ他ニ起ヘテ能ク軍事ニ適任ナリトスベカラ
 ス仮令日本ニ貴族ヲ永存スルノ論ヲ主張スル
 モノ衆多アリト虽氏兵馬ノ權ヲ有スルノ貴族
 ラ永存セント欲スルハ最モ不策ノ極ニシテ畢
 竟恰カモ千二百年前ニ於テ將軍職ヲ置キシカ
 如ク同轍ノ弊ニ至ルヲ免レサラン況ンヤ爾日

一新復古ノ目途ヲ達シタル政府年来ノ本旨ニ背クノ論ナルニ於テヤ若シ夫レ華士族ニ給與スルノ大金ハ之レヲ他ノ要用ノ公益ヲ起スニ用ユヘクシテ復タ之レカ増給ヲ許スハ甚又不相當ナリト云フニ過キサルヘシ何トナレバ教育日ニ盛ニ開化月ニ進ムノ今日ニシテ猶只獨リ金銀ノ巨額ヲ占有スルヲ以テ速カニ強國トナラントナサハ則チ華士族ハ年々其家祿ヲ衣食ニ費シタル餘剩ヲ活用シテ梳子悉ク國內ニ存在スル貨幣ヲ所有シ終ニ國家ノ命運ヲ

シテ獨リ華士族ノ掌握中ニアラシメヤト云フモ亦タ可ナリ然レ氏総テ此金銀ヲ以テ何等ノ事業ニ充ツヘキヤ或ハ利子ヲ取テ之レヲ貸與シ或ハ他ノ利益ヲ生スヘキモノヲ購入スル等ノ如キ漸々減少スルコト日一日ヨリ多キヲ見レハ則チ夫ノ餘剩ハ只空シク庫中ニ貯蔵スルモノノミト信ス夫レ貨幣ハ唯今日現實流通スルヲ以テ國家ノ須要ナリトス若シ之レヲ貯蔵シ或ハ之レヲ流用スルヲ知ラサル者ノ手ニ存在スル時ハ徒ニ

國家ノ為メニ實ニ無用ノ長物タルノミナラス
 其所有主ノ為メニ又無用ノ長物タルニ過キ
 ス抑流通セサル資本金ニ資本金ニアラス及令
 國中無量ノ貨幣ヲ累積スルト雖之レヲ流用
 セスシテ空シク貯藏スル時ハ其國早晚必ラス
 貧窮タルヲ免カレス

寶玉金屬或ハ貨幣ヲ有シテ國家ヲ益スルハ只
 常ニ間断ナク之レヲ數人ノ手ニ轉換スルヲ以
 テナリ其間流通スル所ノ貨幣ハ甲ヨリ乙ノ手
 ニ渡ル毎ニ甲ノ授與人ヲシテ便益或ハ利潤ヲ

得ヤシメ又乙ノ領収人ヲシテ又之レヲ流通ス
 ルノ便利ヲ得ヤシム請フ茲ニ其一例ヲ揚テ之
 レヲ解明セン及令ハ十錢ノ價位アル貨幣ヲ以
 テ當日ノ朝茶葉一筒ト引替ニ市店ノ主人ヨリ
 茶園主ニ渡スモノト做シ茶園主ハ直千ニ之レ
 ヲ木綿及物一ヤルドヲ購求スルニ用ニ木綿製
 造人ハ又之レヲ以テ市場ニ行キ日々ノ常食ニ
 充ツル疾ノ魚料トシ魚商ハ酒店ニ到リテ之レ
 ヲ消費シ又酒店ノ主人ハ之レヲ以テ其酒ヲ或
 ルヘキ土燒ノ瓶子ヲ買求シ瓶子高ハ之レヲ得

一菓子ヲ買ヒ菓子商ハ又之レヲ得テ炭一匁購
 買シ炭商ハ之レヲ翌日マテ貯藏シ置キラ山方
 ヲリ新メニ炭ヲ仕入スルニ用スルノ類ナリ
 今此十銭ノ貨幣ニ由ラ之レヲ見ルニ初日ノ運
 用ト第二日ノ運用トニ於テ格外ノ差違アリ即
 千七ト一トノ以較ニ當ル何トナレバ初日ハ各
 十銭ノ價アルモノ七種ノ買フニ用ヒタルニ據
 テ實際十銭七個ノ價アリ然ルニ第二日ハ概シ
 炭高ノ手ニアリテ只十銭一個ノ價アルノニ若
 シ炭高ニ於テ其翌日敢ラ之レヲ止ラ流月セシ

一ハ則チ日本全國ニ取テハ其兩日間運月ノ異
 ハ七個ト皆無トノ差トナルヘシ何ントナレバ
 只空シク炭商ノ手ニ存在シテ後々交換ノ媒介
 タル國家ノ使用ヲ為サレハナリ然ルニ片ハ畢
 竟國家ノ為メニハ曾テ貨幣ヲ發行セサリシト
 相等シ抑初日ノ運用十銭七個ハ即チ七十銭
 相等シ其理ハ十銭ヲ以テ順次購求シタル茶、木
 綿、魚、酒、瓶子、菓子、及ヒ炭ノ價ヲ通算スレハ概シ
 之レヲ證明シ得ン即チ若シ此等ノ品々ヲ悉ク
 一時ニ購求セントスル時ハ七十銭ヲ費ヤセ、

ルヲ得ナルニ由ラ然ル事判然ナリ
 此貨幣ニ関セシ實際工ノ理由ヲ以テ悉ク其價值
 アル物品モモ亦等シク之ヲ適用スヘシ何
 ナレバ何品ヲ問ハズ凡ノ物品ヌルモノ列ヘハ
 鍍器ノ如キモ之レヲ使用スヘキ者ノ手ニ至ル
 ノ以前其成功マラノ間々各種ノ職工二十人乃
 至三十人ノ數手ヲ經サルヘカラサルモノトナ
 シ且ク其各種ノ課業凡ソ十二ケトニシテ卒ル
 ヘキヲ僅カニ一ケ月中ニシテ之レカ成功ヨ期
 スル時ハ即チ一ケ年間費スヘキ諸職業ヲシテ

7

只三十日ニシテ之レヲ功成セシムル事判
 リ其速度ノ利益ハ必ス益穢ノ運用ヨリ生スル
 ノミ故ニ若シ國家ノ財本ヲシテ前段ニ述フル
 モノト等シキ方法及ヒ之レニ比較スル時日ノ
 速度ヲ以テ之レヲ流通セシムル時ハ蓋シ其國
 民大ニ他國ニ抽ラ無量ノ利益即チ十二倍ノ富
 ヲ得ハルミナラス又或ハ資本ノ金額ハ之レ
 ヲ他國ニ比スレハ些少ナリト雖モ其產出スル
 物貨ノ額ニ於テハ其他國ニ起過スルヲ得スシ
 凡ソ金額ハ必令些少ナリト魚凡夫ノ度高如

貨幣ヲ流用セスシテ空シク庫中ニ貯藏スル
 ハ損ナリ既ニ此損ナルヲ知ルトキハ則チ今日
 日本ノ如ク國家ノ富ヲシテ流通セシメサル位
 幣ノ額多キニ居ルハ亦夕實ニ損失ナルヲ辨ス
 ヘシ現今華士族ニ給與スベキ金高一ヶ年凡ソ
 千六百三十四萬九千七百八圓ヲシテ物産繁殖
 ノ為メ必要ノ事業ニ活用セシムル時即チ二
 十ニ為二千四百九十五人ノ職工ノシテ各課業
 ニ就カシムルニ充分ナルベシ其職工各非常高
 等ノ在値一ヶ年六十圓ヲ受ケ毎月五日ノ

ト新年ニ方リ相當ノ休日トヲ除キ尚一ヶ年
 八千百七十四萬八千八百〇ノ職業ヲ管ムヲ得
 二十年前佛國ハ世界中最も多分ノ金庫ヲ貯藏
 シ其額凡ソ二十五億フランクニ昇レリ然レ氏
 此金高ノ中自國ノ金銀鑛山ヨリ産出セシモ
 ハ微々ノルモノニシテ多クハ物産ノ製出ト輸
 出品ノ賣却トニ據リテ得タルナリ而シテ之レ
 ヲ一日一人一フランノキニ割合ヲ以テ計算ス
 レハ則チ十億六千六百六十六萬七千日課

業ヲ為シ得、キナリ今日本ニ於テ此法ニ執レ
ハ則チ毎年華士族ニ給與スヘキ家祿、夫ノ佛
國莫大ノ貯藏高約ネ二十分一ヲ産出スル
要用ノフル雇値ヲ拂フニ足ルヘキ金額ト等シ
カルヘシ

日本ニ於テ華士族ニ家祿ヲ給與セサレハ年々
夫ノ佛國二十年前金銀ノ貯藏高二十分一ニ
等シキ輸出物品ヲ産シ且、其頒賣ノ代價亦國
ニ流入スヘシト誤認スルハ予敢テ望マサレテ
抑國ヲ富シ財ヲ殖スルノ策ハ貨幣ノカ

9

物品ヲ要スルニアリ而シテ各國一般ニ
ラ有スルモノニアラス古ニ貨幣ノ貯藏ハ國
ハ産ヲ繁殖スルノ根柢ニシテ就中最初創業ノ
際ニ於テハ最モ欠クヘカラサルモノナリト虽
氏徒ニ金銀ノ巨額ヲ貯藏スル國々ハ必ス富國
ノ最極タリト謂フヘカラス請フ其事情ノ確證
ヲ言ハシ、曾テ佛國ニ於テ英國ヨリキ二倍或ハ
ハ其餘ノ貨幣ヲ所有セシ時ニ方リ英國ノ貿易
ハ佛國ノ貿易ヨリモ却テ盛大ニシテ其富饒ハ
且ソ佛國ニ厚レリ又西班牙ニ於テ一時合衆國

ヨリモ莫大ナル巨額ノ貨幣ヲ有セシ時ア。シ
 ト虽凡尚合衆國ハ西班牙ヨリモ其富有遙カニ
 多カリキ其由ラ来ル所以ノモ。ヲ辨ムルハ簡
 ニシテ最明ナリ若シ國家一回農工ノ業ヲ充分
 ニ恢張セハ則チ其精巧勳勵及ビ各始計ノ創業
 カニ賴ラ曾ラ眼前實功ヲ奏スヘキト想像シタ
 ル金銀ノ所存ヨリモ曾ラ一層超越シ其富饒
 曾スハ實ニ農工ノ業ヨリ速カシハ無
 謂フニ過キナルノミ
 前件ノ理ハ貿易ニ從事スルノ際只貨幣ノ要用

9の2

ハ互ニ物品ノ交換終リテ而シテ后チ之。以テ
 差引計筭ノ殘金ヲ拂ハハト認ムル。キハ各
 員ニ其理ヲ解明シ得ヘシハソ一般ノ通規ニ據
 レハ差引計筭上殘金ソ受拂ハ互ニ甚ニ僅カナ
 ルモノナリ佛國英國及ビ合衆國ノ如キ通商ノ
 法其宜シキヲ得ルノ國々ニ於テハ互ニ決筭
 ノ際僅ニ少ノ殘金ヲ除クノ外大概十分ノ九
 ハ一弗ニ貨幣ノ受拂無クシテ決筭スルモ
 例ハ茶園三年未ニ至リ其取引先ノ高賣諸

勘定ヲ決算シテカ為メニ市ニ来ル時其茶園主
 ニ於テ受取ルヘキ貨幣或ハ拂フヘキ貨幣ア
 ル事ハ稀ニシテ只我レヨリ送りテ茶ノ代價
 ト我レヨリ買入タル家具及ビ農具ハノ補理ニ用
 エル鑛、干魚、衣類、油、其他品物ノ代價ト差引決算
 シテ終ルノニ又其高賈ハ製造人ヨリ買入レタ
 ル荷物ノ代價ト茶園主ヨリ送りタル茶ノ代價
 ノ以テ決算スルナリ其決算ニ為スル法
 ヤ夫ノ茶ヲ以テ銀行ニ預トシ以テ其銀行ニ
 双方帳簿ヲ製シ置クトナス時ハ即チ其帳簿上

10

上ニ代價ヲ登記シタルニ據テ後々貨幣ノ運搬
 シテ決算スルニ及バズ一揮ノ筆頭ノ以テ之
 レヲ決算スルヲ得ヘシ而シテ到底ニシテ互
 未利加ニ其茶ヲ輸出スルノ港ニ於テニレカ
 替ヲ組ミ其賣拂代價ト製造人ニ資本トシテ貸
 附タル金高トテ差引決算ニ充ツルナリ故ニ總
 テ此取引上ニ全ク要用トスル貨幣ハ茶園市店
 製造所及ビバンク創立ノ費用ト茶園ノ日雇賃
 金荷物製造ニ使役スルモノ、賃銀及ビバンク
 書記ノ給料トニ要用ナル各種ノ金高ナリ雖

モ此金高ヲ合計シタル総額ヲ茶園主高買製造
 人及ビバンク等各營業人ノ金額ニ比スレ
 ハ實ニ僅ナルモノナリ然レテ而シテハ
 無クシテ其製造物産ヲ起シタル工業ノ
 勞カト
 ヲ自ラ獎勵スルノ方術無カルベシ又
 要用ノ工
 業及ビ勞力無クシテ貨幣ヲ所有スル
 モ亦無用
 ニ屬スヘシ是ヲ以テ此ノ三ツノモノ
 既チ貸
 コト及ビ勤勞合シテ茶園主ノ地
 田ヲシテ
 ノ品ヲ産出セシムルノ便ヲ得高買
 ハ之レカ
 為メ内國製造人ノ製造セシ荷物
 ヲ内國費
 耗ノ

11

為メ市場ニ頒賣スルノ利ヲ得ルナリ
 今若シ茶園主ガ必月トシテ市場ニ運搬
 スヘキ
 荷物ノ製造人内國ニアラスレ
 認ル時
 則チ其
 荷物ヲシテ英國ヨリ輸入セシメ
 サルカラ
 而シテ其代價ハ敢テ超過セサル
 トモ概ネ我
 ヲ
 リ
 亞
 利
 加
 ニ
 輸
 出
 シ
 タ
 ル
 茶
 ノ
 代
 價
 ト
 相
 等
 シ
 カ
 ル
 故
 ニ
 茶
 園
 主
 高
 買
 製
 造
 人
 及
 ビ
 バ
 ン
 ク
 ノ
 ト
 ノ
 間
 ノ
 差
 異
 ハ
 英
 國
 ニ
 於
 テ
 為
 サ
 レ
 シ
 カ
 ラ
 ヲ
 知
 リ
 至
 ル
 然
 ル
 ト
 キ
 ハ
 畢
 竟
 茶
 園
 主
 ノ
 勤
 勞
 ヲ
 以
 テ
 亞
 利
 加
 ノ
 金
 銀
 ヲ
 日
 本
 ニ
 受
 取
 ル
 ヘ
 キ
 又
 ノ
 轉

シテ英國ニ田漕セシムルニ至ルナリ
 若シ又之レト及對シテ茶園主ノ要用トスル荷
 物ヲ日本自國ニ於テ製造シ之ニカ為メニ亞米
 利加ニ輸出セシ茶ト交換ニ英國ヨリ少シテ輸
 入ヲ仰カサル時ハ英國ニ送ルヘキ金銀ヲ自ラ
 日本ニ受クヘキナリ斯ノ如キト同般ナル取引
 巨多アリテ金額ノ出入モ亦以テ之レニ準スル
 上認ル時ハ年未_レ至リ及今佛國ニ八百五十六
 年總額ノ二十分ニ及ハバト虽氏猶巨萬ノ金額
 至_レヘシ此金額兩三年ヲ累積セハ目下實ニ

12

富有_レ餘スヘカラサルモ猶當國貨殖ノ權ヲ立
 ツルニ足ルヘシ而シテ人民之レヲ適宜ニ利用
 セバ將來必ス富饒ヲ為スノ基本タルヘシ
 此地位ヲ占メントスルニ當テ現今日本ニ妨害
 トナルモノハ蓋シ何ソヤ人民之レニ從事セン
 トスルニ於テ閑産スヘキ地アラサル乎將タ要
 用品(例ヘバ衣類、建築用ノ諸物品及ヒ家具等ノ
 如キモ)需要ニ乏シキ乎將タ兵卒水夫ハ物
 資ヲ費耗セサル乎將テ國口全地既ニ悉ク耕シ
 得ル乎抑又今日耕作スル田畝ヲ除クノ外其他

ノ土地ハ毫モ物産ヲ蕃殖スルニ適セサル乎
 此問題ノ第一ヶ条ハ物品輸入高ノ表ト貨幣輸
 出高ノ表トヲ以テ總テ要用ノ答議、為ス第二
 ケ条ニ答フル亦容易ナリ即内地ヲ巡回セシモ
 ノ、報知ニ於テモ我輩ノ目撃ニ於テモ日本國
 内猶^ナ開墾スヘキノ地數多アリテ其土質多ク破
 碎シタル火山灰質ノモノヨリ成立シ耕鋤ノ為
 メ最上好ノ地味ノミナラス而カキ國內ニ多少
 ノ貨幣アリト雖^レ亦タ措テ之レヲ顧ミス依然
 トシテ其土地ヲ天然ニ存シ置クヲ知ル而シテ

15

我輩實ニ日々市中往來ノ際現今徒ニ毫モ富ヲ
 生セサルノ勞カニ服事スルモノ例ハ人カ車
 引ノ如キモノ多人數アルヲ目撃ス若シ今國內
 ニ在ル貨幣ヲ活用セハ此者等ノ方向ヲ轉シテ
 荒蕪ノ地ヲ開發耕鋤シ及ヒ製造物ニ從事セシ
 ムルノ賃銀トナスニ足ルヘシ
 既ニ斯ノ如クナレハ國家ノ富ヲ生スルニ要用
 ナルモノニ於テ地所アリ勞カアリ貨幣アリ然
 ルニ其地所及ヒ勞カラシテ富ヲ生セシムル資
 本タルノ貨幣ハ何ヲ以テ輻湊セサル乎今夫レ

華士族ハ既ニ此貨幣ヲ有セリ若シ一朝之レヲ
シテ流通活用セシムル時ハ抑リ彼等自己ノ榮
達ノミナラス固トニ國家ノ公益ヌルベシ然ル
ニ何ヲ疑フ之レヲ流通活用セシテ空シク貯
蓄スル乎是レ一ノ問題ニシテ今切ニ之レカ答
辨ヲ要スル所以ナリ

